

令和7年度 第4回 守山市人権尊重のまちづくり審議会 会議録

【日 時】 令和8年2月25日（水） 午前10時から11時30分まで

【場 所】 守山市役所 31・32 会議室

【出席委員】 今井委員、澤田委員、大谷委員、川嶋委員、太田委員、鈴木委員、
奥村委員、川崎委員、富川委員、美濃部委員

以上10名

【欠席委員】 杉田委員、杉江委員、石田委員、大井委員

【事務局】 長谷川部長、森口次長、大隅主幹、小濱主任、美濃部事務員
（関係課職員） 坪内商工観光課課長、小寺地域総合センター所長

【傍聴者】 0名

【会議内容】

1 開 会

2 あいさつ

3 案件

(1) 報告事項

ア 第4次守山市人権尊重のまちづくり総合推進計画（改定版）について

イ 自治会における人権・同和問題学習会の実施状況について（中間報告）

(2) 協議事項

令和8年度の啓発テーマについて

4 閉 会

発言者	議事内容
	1 開 会
	2 あいさつ（副市長、会長）

発言者	議事内容
	<p>3 案件</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>ア 第4次守山市人権尊重のまちづくり総合推進計画(改定版)について</p> <p><事務局概要説明></p> <p>意見なし</p> <p>イ 自治会における人権・同和問題学習会の実施状況について(中間報告)</p> <p><事務局概要説明></p>
会長	事務局からの説明についてご意見・ご質問があればお受けしたい。
委員	<p>これまで71自治会中70自治会が人権・同和問題学習会を開催されていたが、今年度さらに1自治会が理解いただき学習会を開催したとのことですが、どのようにその自治会にアプローチされたのか。</p> <p>もう一点は、例えば高齢者サロンなど多くの人が集まる場と合併した学習会を持つのもよいかと思うがいかがか。</p>
事務局	<p>自治会長に電話連絡をして人権学習の趣旨を理解していただき、取り組みやすい方法として各種の人権啓発資料を紹介して電子版による全戸配布をしていただいた。</p> <p>次に合併型の人権学習会の開催については、学習会の単独開催もちろん意義があるが、さらに多くの方が参加していただけるように他の行事との合併型の学習会も一つの方法であり、自治会には事例の紹介をしていきたい。</p>
委員	<p>私は、コロナが流行した時期に自治会長を務めていたが、人権学習会を含めて自治会事業は大きな打撃を受けた。コロナ後の人権学習会は参加者が少ない状況で、今年度の参加者数は以前の3分の1くらいになっておりそのほとんどが自治会の役員であった。この回復はなかなか難しい。</p> <p>また、高齢者サロンの合併型の例が挙げられたが、自治会によっては高齢化率が高くなっているところもあり会場に入りきれない。そのあたりをどのようにするのも課題である。</p>
委員	<p>今回、学習会のポイントとして集合研修、その理由として参加者が話し合うことによる学習の深まりがあるという説明があったが、実施方法の内訳で「講師による講話」が46件あるが、ここでも話し合いやグループワークなどが行われているのか。</p>

事務局	<p>講師のスタイルにもよるが、講師は一方向に話をするだけでなく、「隣の方とお話ししてみましよう。」など話し合いや意見交流の時間を設けていただいていることが多い。また、「DVDと講師による講話」についてもDVDを視聴された感想を出してもらったりするなど、参加者の交流の時間を持ってもらうなどしている。</p>
委員	<p>参加者の意見交流についてはその「ねらい」や「柱」となるものをあげて具体的に事例紹介をしていくと、大事なことであることが伝わり実施件数も増えていくと思う。また、「DVDのみ」のところも「ぜひグループワークを組み合わせてください」と呼び掛けていくと、話し合いを取り入れた学習会がぐっと増えていくと思う。</p>
事務局	<p>「DVDのみ」については働きかけるところである。特に世代の違う参加者との意見交流があると学びが深まり、新しい気づきが得られる機会にもなると考えている。話し合いを含めた学習会の設定をしていただけるよう情報提供に努めていきたい。</p>
委員	<p>自治会長を務めているが人権学習会を開催するのに非常に苦労している。自治会役員のライフスタイルが多様化しており、なかなか事業を増やすことが難しい。逆に減らしてほしいという要望がある。人権学習会も年2回から1回で良いのではという意見が強い。</p> <p>「意義のあることであり、市からも2回実施の要望がある」ということで知恵を絞っているいろいろな形を考えて実施している。これまで聴導犬やボッチャなどについて開催してきた。今年は高齢者事業に引き続いて認知症と人権についてのDVDを視聴した。DVDを見て終わりにせずに参加者に人権標語を作っていたいただいた。学習会については、回数もさることながらアイデアを出さないと「人権学習会をやりますので、集まってください」では参加してもらえない。来られるのは役員や決まった人だけで広がっていかない。自治会長としてジレンマを感じており、集合学習の形が良いと思うが、集合学習以外でもこのようなものがあります、というものも情報提供していただければ自治会において広い形で考えていけると思う。</p>
委員	<p>学校の立場から話をさせていただくと、人権学習会の年代別参加者が50代以上の方が半数以上であり、子どもの人権については、家に帰ってから、保護者の方や地域の方の子どもへの働き掛けが非常に大事であり、20代から40代の参加をどのように広げていくかが大きな課題ととらえている。</p> <p>人権啓発講師団には校長となった時に登録されるが、1年で抜けることが慣例となっている。自治会の方からすると講師団の名簿にない校長へのアプローチは難しいことから、選定の仕方もう少し幅が広がれば講師の選択肢も広がるし、身近な小中学校の校長の話</p>

	<p>であると保護者世代の参加が増えるのではないかと思う。</p> <p>また、日常的に自治会館をオープンな形にして誰でもいつでも利用できるような状況を作っていくと、色々なイベントについても行ってみようという気持ちが高まるのではないかと思う。学校の方も、自治会のいろいろな取組に子どもたちや保護者の啓発も含めて、いかに参加させていくのかということも協力していかなければならないと思う。</p>
会長	<p>私も自治会長を務めていたときに、年1回の町民交流会で人権学習会を重ね合わせながら開催した。避難訓練をした後の全員集まったところで人権学習を開始した。最後は抽選で景品が当たるなどのお楽しみ事の工夫を取り入れて住民に集まっていたようにしていた。コロナによってなかなか集まることが難しくなったが、工夫によってはいろいろなことができることを伝えておきたい。</p>
委員	<p>話し合いを入れると参加者が減ると言われたことがある。なかなか難しいのだと思う。講師の中に漫才や落語など裏技を持っている方を入れるというのも一つの手かなと思う。面白おかしいことが決して悪いことではないし、面白おかしく大事なことが伝えられるのは大切なことだと思う。</p>
会長	<p>学習会の始まりに人を惹きつける手法も大事であるし、人権の中身も大事でありセットで使うのがいいかもしれない。</p>
委員	<p>福祉学習の授業で小学校4年生に対して、ボッチャなどを通して守山市の障害者スポーツ協会も頑張っていることを伝えて子どもたちに「皆さんは私たち障害者のサポーターだからよろしくお願ひします」と言ったら、子どもたちは「頑張るわ」と言ってくれた。あいさつなどコミュニケーションが図れていると障害者の当事者としてヘルプが頼みやすくなる。</p>
委員	<p>私が住んでいる自治会で人権の役員をしていた時、地元の校長先生に人権学習会でお話しをいただいたり、高齢者サロンの方と一緒にボッチャをしたところ、高齢者も子どももたくさん来られて盛り上がった。また、まちづくりと人権というテーマでの学習会では、役員のみなさんの反応がとても良かった。実際に人権学習会に参加してみると皆さんも得られるものがあると思うので、「行ってみてこういう良かったことがあった」というのが広まると行きやすくなるのではと思う。</p>
委員	<p>今月、防災について外国の人と日本人の方との研修会を行った。</p>

<p>会長</p>	<p>地域に住んでいる人達で避難経路の確認をしたが、言葉のことなどの課題も見つかった。</p> <p>委員の皆さまから出していただいた意見を発信する場として、毎年5月に学区別の人権問題学習会の説明会がある。その場で、話し合いや意見交流の働きかけや、より多くの方が参加し、考え気づいていただき、学んでいただけるような提案を事務局の方から伝えていただければと思う。そうすることで、人が集まることも大事であるが、より中身が濃く、人権が尊重されたまちづくりをしていこうという趣旨に沿った動きが見えてくるのではないかと思うので、その発信もお願いしたい。</p> <p>(2)協議事項 令和8年度の啓発テーマについて ＜事務局概要説明＞</p>
<p>会長</p>	<p>事務局からの説明を受けご意見を伺いたい。</p>
<p>委員</p>	<p>質問として、令和8年度のテーマ案ということだが1年ごとにテーマが変わる予定なのか。現在、自治会の学習会は2回実施のうち1回は同和問題を取り入れてくださいとお願いしていると思うが、今回のテーマ案ではどのような呼びかけになるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>自治会の人権学習会ではこれまで通り同和問題を2回のうち1回は含めて行ってくださいということの変更は考えていない。1年間を通して、啓発リーフレットやいろいろな場面で行う研修等において市民に啓発を行っていく際に、今年はこのテーマを中心に行うというものである。</p>
<p>会長</p>	<p>テーマについては審議会でご意見を頂戴しながら毎年設定するものであり、来年度については人権三法の施行10年目ということを受け、同和問題とヘイトスピーチを中心に取り上げたいということに対して、意見を伺いたいという理解で良いか。</p>
<p>事務局</p>	<p>自治会の人権学習会では2回のうち1回は同和問題を、とお願いしているが、実態として1回も取り上げていない自治会もある。このことから、令和8年度は強調して特に同和問題を取り上げてほしいというところを意識したものである。</p>
<p>会長</p>	<p>私に関わる守山市まちづくり人権教育推進協議会の総会の中でも、このテーマを主にしながら発信することで諸団体の方も取組の方向性が明確になっていくと受け止めている。</p>

事務局	<p>今回計画を改定した中でも様々な分野があり、重点的に進めるとしたところを意識して進めていくことも一つの手法ではないかということでテーマ設定をしていきたい。会長のご意見のとおり審議会と啓発分野を担っていただいているまちづくり人推協が、連動した形で進んでいくと効果的になると考えている。</p>
委員	<p>ここ半年くらい国の方針として出入国在留管理の適正化とか外国人制度の適正化とかが大きな声で叫ばれている中で、排外主義・排外意識が今までよりずいぶん強くなっているように感じる。インターネットを見ているとその排外的な意識が強くなっていたりする。京都では東洋からの観光客が減っていると聞く。台湾有事の発言での影響もあるのかもしれない。</p>
委員	<p>このようなニュースは在留外国人の方はとても敏感になっています。このことはシビアに感じている。守山で働いている外国人は受け入れ企業がしっかりして教育や研修を行っている。個人で来られる人はどのように思っているか分からないがシビアに感じていると思う。</p>
委員	<p>排外的な意識は、外国人に向けてだけでなく、同和問題にしても障害者の問題にしても、自分達と違うものが自分達の枠組みの中にいてほしくないという意識につながっていくと思う。排外主義や排外意識というものは人権を大事にしていこうというところとは逆の方向に進んでいくものである。</p> <p>令和8年度の学習会のテーマの中でも、自分の意識改革や自分の中にこのような意識がないか振り返ってみることを大事にするような研修ができれば良い。大きなテーマだけでなく、どのテーマについて学習しても「自分と違う人が嫌や」と思うことが差別を生んでいることに気づけるような研修に持っていけたら良いと思う。</p>
会長	<p>先日、ハンセン病問題についてのシンポジウムが仙台でありオンラインで参加した。高校生や元ハンセン病の当事者の方、全国の療養所の方々のご意見を交えながら3時間にわたるシンポジウムであった。ハンセン病の問題は若者たちにとって直接的な問題ではないととらえていたが、埼玉県にある開智学園の高校生が探求の学習で1年から3年間ハンセン病の事柄について取り組むことを通して、学んでいくことで高校生が話している中で「自分事」という言葉がよく出てきた。自分事としての受け止めが大事であり、まちづくり人権教育推進協議会の中でも部落差別問題を含め様々な人権課題について自分事としての受け止めが大事であることを発信し続けている。2月21日に開催された「部落解放研究第33回滋賀県集会」の資</p>

	<p>料中にも自分事として部落問題学習をどうするのかというテーマがあった。「自分事として部落問題学習をどう進めていくか」、「自分事として部落問題をどういうふうに受け止めていくのか」という、自らへの問いかけと自分事として進めていくことの大事さをどうすると良いのか。部落差別においてもヘイトスピーチにおいても他人事としているから排外主義的なものになってしまう。自分事として感じるためにどうすれば良いのか、という切り口で考えてもらえると良い。</p> <p>また、甲斐田万智子さんの講演を聞く機会があった。甲斐田さんの論文には、「自分事として部落問題をどう受け止めるのか」ということがよく出てくる。自治会においても各組織においても、自分には関係がないという意識ではなく、どのように関わり一緒に考えていくと良いのかを学ぶ機会があると良い。先日甲斐田さんは、「マイクロアグレッションの学び」「交差性の学び」「アクティブバイスタンダー」が重要であると話されていた。私達もこれから1年このような学びを行うためには、切り込み口があるとよいと思う。「同和問題やヘイトスピーチをやります」という前に、学びの切り込み口が必要だと思う。</p>
事務局	<p>同和問題について距離感を持っている人が多い。ヘイトスピーチについてはメディアが与える影響がこの10年間で大きく変化する中で、ヘイトスピーチをどう考えるかは目の前のこと。同和問題とヘイトスピーチそれぞれのアプローチや捉え方の違いがあるが、この2つのテーマをかみ砕いて伝えていくことが私たち行政の仕事になる。「ちょっと伝わりにくいね」というところがあればご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>同和問題とヘイトスピーチは本当に重い問題であり、これを聞いたときの自治会の受け止め方も難しいと思う。資料4の2(2)人権をめぐる課題で「私にできることからやっていきたい」と考える人は26.5%にとどまっている。「私にできることからやってみよう」という切り口からヘイトスピーチだったらこのようなこともできるよと考えていけるのも良い。このことは自分事としても繋がっていくのではないか。</p>
委員	<p>同和問題とヘイトスピーチの二本柱にしてしまうと、テーマが大きすぎて難しい。自治会におろしていくときは柔らかい言い方が必要である。</p>
会長	<p>交差性の学びの話をしたが、ヘイトスピーチや障害者の人権、部落差別問題など単独ではなく結びつけながら考えていくことが大事である。自分事で話をする、自分を出しながら考えていくこと、</p>

事務局	<p>そして解決に向けてどうしたらいいのか一緒に考えていくことだと思う。</p> <p>自分の言葉で喋るということを考えてみるのも一つの方法であると思う。集合研修の中で、自分の言葉で考え話していけるように取り組むなど、自分事として捉えられる啓発・学習を進めていきたい。</p>
会長	<p>貴重なご意見を賜りましたことにお礼申しあげ、本日の審議会を終了する。</p>